

現状の地域移行へのネックの例

質問 入所児童が自宅に戻ると仮定して
車いすで自由に移動できるだけの
廊下・通路を有している家屋に住める
児童は？

回答

- | | |
|--------------|-----|
| 1. 大勢いる | 0% |
| 2. 症例によってはいる | 42% |
| 3. ほとんどない | 54% |
| 4. まったくない | 4% |

今後、肢体不自由児の地域への移行・在宅
支援が推し進められることへの意見など

1. 地域医療の崩壊とくに小児科医の不在地域
が増えた(医療の受け皿がない)
2. 子どもの療育は国策として保護すべき
3. 学校への送迎、放課後対策が困難になった
4. 相談支援事業所との連携がますます重要
5. 地域支援事業の報酬が安価すぎる
(専従の職員雇用が困難)

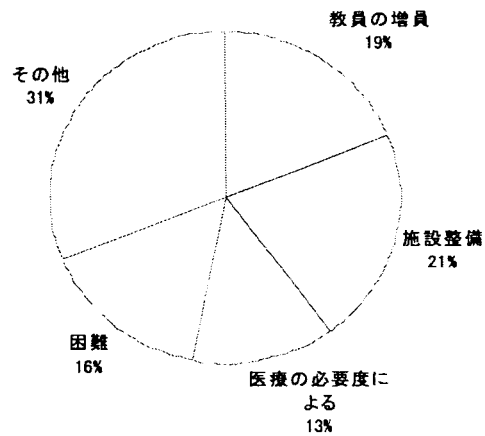
質問 養護学校での、たんの吸引、導尿介助は
どうされていますか。

- | | |
|-------------------------|-----|
| 1. 保護者からの依頼で、担当もしくは養護教諭 | 31% |
| 2. 児童が低学年であることを条件にしている | 0% |
| 3. 担当教諭に任せている | 14% |
| 4. 保護者に来校してもらっている | 55% |

その他

- ・常勤、パート看護師による(全国)
- ・訪問看護ステーションから派遣(東北)
- ・研修を受けた教諭、養護教諭(関東、東海)
- ・県の実施要綱による(信越、関東、東海、近畿)
- ・咽頭より手前の吸引は教員も可能(北陸)
- ・導尿は、その度ごとに通院させる(中国)

質問 知的障害養護学校での肢体不自由児
の受け入れは可能か……



参考資料

肢体不自由児施設の歴史

肢体不自由

療育

の言葉は高木憲次先生が創られた
(第2代東大整形外科名誉教授)

療育の碑

療育の理念

たとえ肢体に不自由なところあるも、次の社会を担つて我邦の将来を決しなければならぬ児童達に、くもりのない魂と希望をもたせ、その天稟をのばさせなければならぬ。それには児童を一人格として尊重しながら、先づ不自由な個処の克服につとめ、その個性と能力とに応じて育成し、以つて彼等が將來自主的に社会の一員としての責任を果すことが出来るように、吾人は全力を傾盡しなればならない。

高木 憲次

(碑文 全文)



(明治21年—昭和38年)



「療育とは、時代の科学を総動員して不自由な肢体を出来るだけ克服し、それによって幸いにも恢復したら『肢体の復活能力』そのものを（残存能力ではない）出来るだけ有効に活用させ、以て、自活の途の立つように育成することである。」

（昭和26年 療育第一巻 第一号）

高木憲次先生による区分

- 1.啓蒙期 （大正13年～昭和8年）
- 2.黎明期 （昭和9年～昭和16年）
- 3.停滞期 （昭和16年～昭和21年）

療育の火を消すな

- 4.復活曙光期（昭和21年～）

全国巡回講演と療育相談

大正 7年	「夢の楽園教養所」の説
大正13年	「クリュッペルハイムについて」
同 年	東大整形外科教授の初講義 「肢体不自由児の療育」
昭和23年	東大整形外科教授の最終講義 「療育も理念」

二つの三位一体

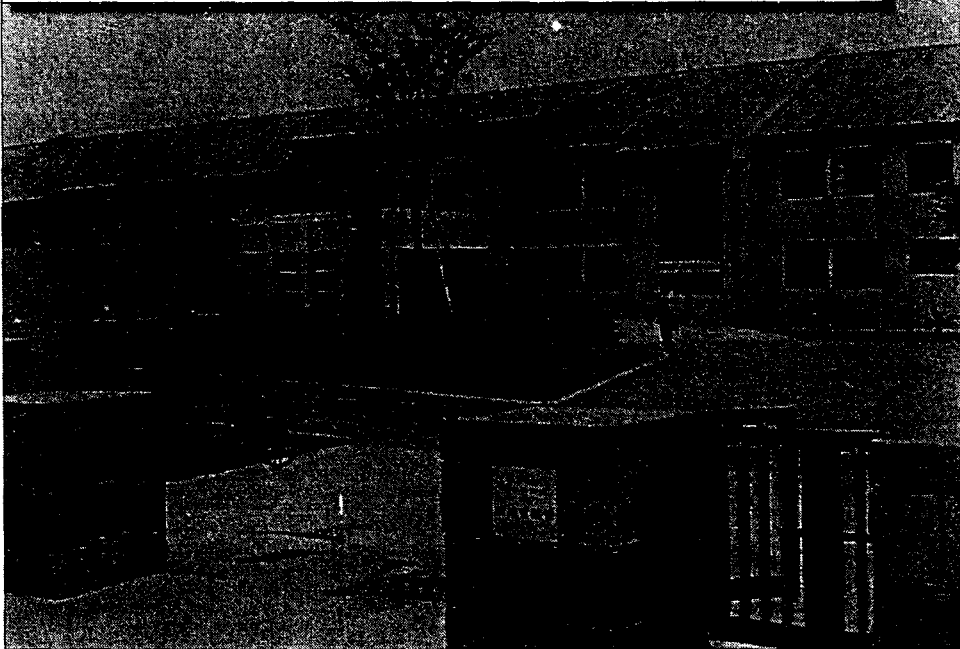
1. 治療・教育・職能
2. 啓蒙

本人には昂然たれ

家族には隠すなかれ

社会には好意の無関心

昭和17年5月、板橋の地に2万坪の敷地に、民間の力で、整肢療護園を設立された。





昭和27年1月本館落成祝賀会 高松宮殿下をお迎えして(橋本竜吾厚生大臣挨拶)
岩原寅猪(慶応大学教授、三木威勇治先生(東大教授)等も参列
(壁には片山良亮先生(慈恵医科大学教授)のお名前もある)

小池文英先生 (戦後、我が国にリハビリテーションの言葉を定着させた一人)



昭和36年 皇太子・妃殿下
NRCCD

1. RIの重要ライフパトロン



Dr. Kazuji Takagi

Charter Life Patron Member

K Takagi



Dr. Fumihiko Koike

Charter Life Patron Member

F Koike



Life Patron of RI

世界中の障害者の生活の質の向上に同じ不屈の熱心と情熱を注いだこと
を感謝し、リハビリテーション・フアウンデーション・アールの全世界的使
命と目的達成へ多大の支援を賜ったことに感謝して、ここにDr.
小滝文英(故人を隔ひ)を重要ライフパトロン会員に任じ、その福利
と特典を贈します。

15 November 1989

会 長 Penmore R. Seton
事務局長 Sus. R. Hammerman

第48回 全国肢体不自由児 療育研究大会

会期：平成15年10月30日(木)・31日(金)
会場：長崎ブリックホール

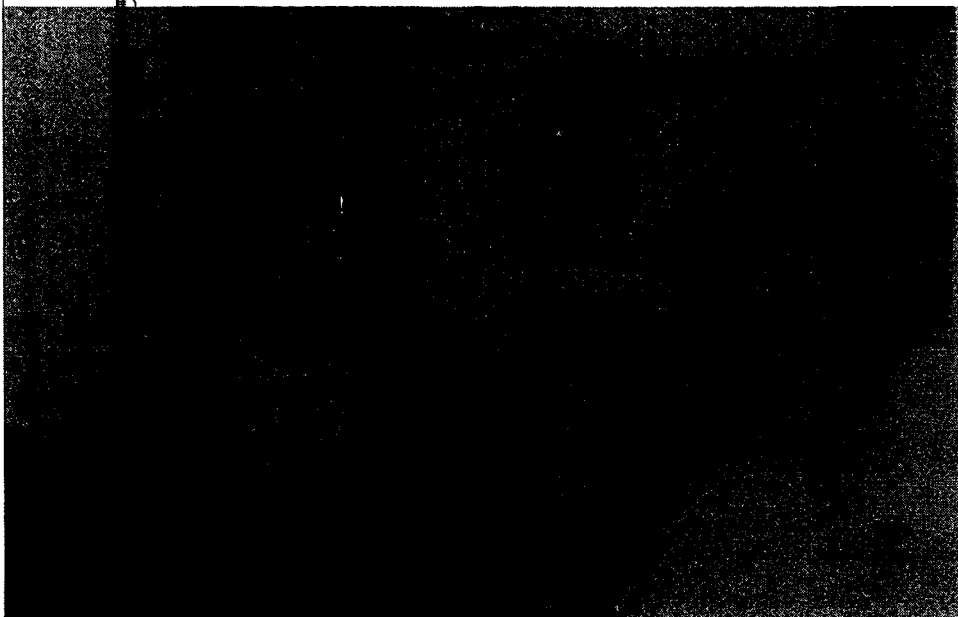


主 催：全国肢体不自由児施設運営協議会

後 援：厚生労働省・長崎県・長崎市
社会福祉法人 日本肢体不自由児協会
長崎県肢体不自由児協会・長崎県視覚障害者協会
長崎市聴覚協会・長崎市障がい児協会 (NPGCD)

・平成2年 小泉厚生大臣の見学

(坂口前心身障害児総合医療療育センター)





整肢療護園50周年・むらさき愛育園25周年記念祝賀会
日本肢体不自由児協会会長津山直一先生のご挨拶(平成4年10月)

自立・家族支援の柱としての障害の受容

宝子伝説

貧しかった昔、障害のある子が
産まれた家に次々と倉が立った。
(神様からの授りもの)

「この子らを世の光に」

臨床心理士・児童精神科医を中心とした
チームアプローチによる心のケア・情緒的支援



スタッフの余裕・より高度な専門性

全国肢体不自由児施設の概要

(1) 施設数及び入所定員 (平成19年3月1日現在)

(職人)

区 分	施設数	一般病棟	重度病棟	母子病棟	小 計	通園部門	合 計
公立公営	27か所	1,943	166	134	2,243	355	2,598
公立民営	12	672	0	63	735	275	1,010
民立民営	23	897	347	31	1,275	473	1,748
合 計	62	3,512	513	228	4,253	1,103	5,356

(2) 入所児童現員及び病類別児童数 (平成19年3月1日現在)

病 名	児 童 数	比率(%)
脳 性 麻 痺	1,177人	51.1
CPを除く脳原性疾患	397	17.3
ペ ル テ ス 病	121	5.2
二 分 脊 椎	82	3.6
進行性筋・神経疾患	81	3.5
骨 系 統 疾 患	97	4.3
先天性股関節脱臼	15	0.7
その他整形外科的疾患	51	2.3
そ の 他	278	12.0
計	2,299	100.0

(3) 年齢別入所児童数 (平成19年3月1日現在)

年 齢	児 童 数	比率(%)
0～6歳未満	360人	15.6
6～13歳未満	928	40.4
13～15歳未満	374	16.3
15～18歳未満	363	15.8
18歳～	274	11.9
計	2,299	100.0

(4) 在所期間別児童数 (平成19年3月1日現在)

(単位 人)

入園期間	～3月	4月～6月	7月～1年	1年～2年	2年～3年	3年～5年	5年以上	計
児童数	356	168	272	241	187	263	812	2,299
比率(%)	15.5	7.3	11.8	10.5	8.1	11.4	35.4	100.0

(5) ADL別在所児童数 (平成19年3月1日現在)

(単位)

区分	食事	着脱衣	洗面歯磨	大小便	入浴	歩行	言語	計	比率%
○	901	630	677	521	411	442	1,024	4,606	28.6
△	575	453	420	444	432	396	399	3,119	19.4
×	817	1,188	1,190	1,283	1,396	1,289	876	8,039	50.0
◆	6	28	12	51	60	172	0	329	2.0
計	2,299	2,299	2,299	2,299	2,299	2,299	2,299	16,093	100.0
要介助比率	60.8	72.6	70.6	77.3	82.1	80.8	55.5	71.4	-

※ ○⇒独りで出来るもの、△⇒相当介助を要するもの、×⇒全面介助を要するもの

(言語の項目については) ○⇒分かるもの、△⇒時々分かるもの、×⇒分からないもの

◆⇒治療の過程(ギブス・けん引等)で出来ない場合

71.4
要介助

(6) 入所児童の知能指数状況 (平成19年3月1日現在)

知能指数	75以上	75以下	50以下	35以下	測定不能	未調査	計
児童数	356人	312	262	507	441	421	2,299
比率(%)	15.4	13.6	11.4	22.1	19.1	18.4	100.0

(7) 職員数と入所児童数の比率 (平成19年3月1日現在)

区分		全職員	看護要員	保育士・指導員
公立公営	定員	1.1	2.0	9.3
	現員	0.4	0.8	3.6
公立民営	定員	1.3	3.0	12.9
	現員	0.7	1.3	5.3
民立民営	定員	2.4	4.4	22.4
	現員	0.6	1.2	5.5
合計	定員	1.4	2.6	12.1
	現員	0.5	1.0	4.5

※1. 看護要員は、看護師、准看護師、看護助手、保育士、指導員である。

2. 職員数は正職員のみである。

(10) 障害児(者)地域療育等支援事業実施状況

- ① 療育等支援施設事業の指定施設 30施設
- ② 療育拠点施設事業の指定施設 10施設

(11) 入所児者の外泊状況

年月	延日数	延件数	実人員
18・3	7,477	3,718	1,509
4	6,065	3,646	1,318
5	8,373	3,835	1,535
6	5,077	2,947	1,118
7	7,824	4,149	1,485
8	13,539	3,799	1,874
9	6,383	3,694	1,475
10	5,995	4,082	1,480
11	5,968	3,372	1,208
12	9,600	4,472	1,794
19・1	11,014	4,511	1,881
2	5,411	3,033	1,171
合計	(90,836) 92,726	(45,258) 39,182	(17,848) 15,822

入院料の算定出来ない2泊3日以上を対象に延日数、延件数及び実人員を計上
()は去年の数

(12) 重度・重症児別入所児童数(種19年3月1日現在)

区 分	児 童 数
大島分類 1～4	(890)人 769
大島分類 5～9	(409) 447
超重症児(スコア25点以上)	(34) 41
準超重症児(10～24点)	(100) 95

62施設実施

(13) 外来患者の被虐待児(種18年3月～19年2月)

区 分	児 童 数
身体的虐待	48人
ネグレクト	42
心理的虐待	26
性的虐待	0
計	116

(14) 外来患者数調べ

①1週間の延外来数(特定の1週間)

区 分	外 来 数	割 合
小児(18歳未満)	12,864	70.1%
成人(18歳以上)	5,479	29.9
合計	18,343	100.0

②外来患者における主病名(特定の1週間)

区 分	小 児	成 人
脳原性運動障害	5,321	2,086
脊髄性運動障害	264	207
筋・神経疾患	260	123
骨系統疾患	119	43
先天性奇形症候群 体表奇形	239	先天異常 70
小児整形外科疾患	679	
その他の整形外科疾患	100	1,527
精神遅滞、知的障害	2,306	214
てんかん	443	275
自閉症	1,481	
ADHD、LD	341	
言語発達遅滞	652	
視覚・聴覚障害	91	
その他の小児科疾患	162	
その他	406	934
合 計	12,864	5,479

外来未実施施設2 59施設実施
未調査1

障害児の包括的評価法 マニュアル

JASPERの実践的活用法

編集：全国肢体不自由児施設運営協議会



JASPER

Japanese Assessment Set of
Paediatric Extensive Rehabilitation

日本広範小児リハ評価セット

目次

1	生命維持機能評価法	
	JASPER摂食嚥下呼吸機能評価票の使い方————— (神田豊子/村山恵子) ・ 2	
	摂食嚥下呼吸機能評価票Ver.6.05の概要…………… 2	
	生命維持機能評価付録：脳性麻痺児・者(CP)における呼吸状態の 臨床的評価—呼吸機能記載票およびVisual Analog Scale (VAS)…………… 7	
	摂食嚥下呼吸機能問診票および誤嚥可能性検出票Ver. 6.05…………… 11	
	水分・栄養摂取方法見直しの指針(対策シート)…………… 16	
	摂食嚥下呼吸機能問診票および誤嚥可能性検出票使用マニュアルVer.6.05…………… 17	
	摂食嚥下機能評価付録：ビデオ嚥下造影検査(VF)評価記載票…………… 20	
	付録：VF評価マニュアル…………… 22	
	生命維持機能評価Ver. 6.05付録：呼吸機能記載票およびVisual Analog Scale (VAS) …… 24	
	生命維持機能評価Ver. 6.05付録：呼吸機能記載票およびVisual Analog Scale (VAS) 使用マニュアル…………… 26	
2	脳性麻痺簡易運動テスト	
	Simple Morter Test for Cerebral Palsy : SMTCP ————— (近藤和泉/中村純人/細川賀乃子) ・ 28	
	SMTCPの作成過程…………… 28	
	Ver. 2.01から2.10までの改訂…………… 28	
	GMFMを基準尺度とした同時妥当性の検討…………… 28	
	今後の可能性…………… 29	
	施行手順…………… 30	
	採点方法…………… 30	
	脳性麻痺簡易運動テスト採点用紙…………… 32	
	施行指針…………… 34	
	1. 背臥位：45度頭をもち上げる…………… 34	
	2. 背臥位：おもちゃに触るためにどちらか一方の上肢を正中線をこえて 反対側に伸ばす…………… 34	
	3. 腹臥位，前腕で身体を支えて：頭部を直立位にし，肘を伸展し， 胸も床から離れる…………… 34	
	4. 前腕支持の腹臥位：体重を右前腕で支持し，対側の上肢を前方へ完全に伸ばす …… 35	
	5. 前腕支持の腹臥位：体重を左前腕で支持し，対側の上肢を前方へ完全に伸ばす …… 35	
	6. 腹臥位：手足を使って左右どちらかへ90度旋回(pivot)する…………… 35	
	7. 背臥位：どちらか一方へ寝返ってから，坐る…………… 36	
	8. マットの上に坐って：上肢で支持せずに坐位を3秒間保持する…………… 37	
	9. マットの上に坐り，前方に小さなおもちゃを置いて ：前方に身体を傾けおもちゃに触り，上肢の支持なしで再び坐位に戻る…………… 37	
	10. ベンチに坐って：10秒間，上肢や下肢で支えないで姿勢を保つ…………… 37	
	11. 床の上から：小さなベンチに坐る…………… 38	
	12. 床の上から：大きなベンチに坐る…………… 38	
	13. 腹臥位：前方へ1.8m肘這いする…………… 38	
	14. 四つ這い位：前方へ1.8m四つ這いまたは弾み這いをする…………… 39	
	15. マット上坐位：上肢を使って膝立ちになり，上肢で支えずに，10秒間保持する …… 39	

16. 膝立ちして：上肢で支えずに前方へ10歩，膝歩きする	39
17. 立位：上肢の支えなしで，20秒間保持する	40
18. 小さなベンチに坐って：上肢を使わないで立ち上がる	40
19. 膝立ち：片膝立ちになってから立ち上がる，上肢を使わないで	40
20. 立位：コントロールして，しゃがんで床に坐る，上肢を使わずに	41
21. 立位：上肢で支えずに，床から物を拾い上げ，立位に戻る	42
22. 立位，片手でつかまって：前方へ10歩歩く	42
23. 立位：前方へ10歩歩く	43
24. 立位：20cm間隔の平行線の間を，前方へ10歩歩く	43
25. 立位：どちらか一方の足でボールを蹴る	43
26. 立位，上肢で支えて：4段昇る，交互に足を出して	44
27. 立位，上肢で支えて：4段降りる，交互に足を出して	44
言葉の説明	45

3 基本的ADL評価法

JASPER・ADL Ver. 3.2の使い方	(伊達伸也/高橋義仁)・48
JASPER・ADL Ver. 3.2の特徴	48
評価の構造	48
評価表の使い方	49
注意点	49
活用の仕方	49
ADL評価表Ver.3.2	50
JASPER・ADL Ver.3.2記入マニュアル	55
1. 食事	55
2. 排泄	58
3. 更衣	62
4. 整容	71
5. 入浴	74
6. 基本的移動能力	76
Q&A	86

4 変形・拘縮評価法

	(湊 純/岡安 勤)・90
本評価法の利用法	90
評価の基本事項	90
準備するもの	91
変形・拘縮評価表Ver. 5.1.3	92
評価表の記入	96
slow stretch版について	97
評価マニュアル	98
1. 頸部の回旋	98
2. 体幹の変形・拘縮	99
3. 肩関節の屈曲	101
4. 肘関節の伸展	101
5. 前腕の回外	101

16. 膝立ちして：上肢で支えずに前方へ10歩，膝歩きする	39
17. 立位：上肢の支えなしで，20秒間保持する	40
18. 小さなベンチに坐って：上肢を使わないで立ち上がる	40
19. 膝立ち：片膝立ちになってから立ち上がる，上肢を使わないで	40
20. 立位：コントロールして，しゃがんで床に坐る，上肢を使わずに	41
21. 立位：上肢で支えずに，床から物を拾い上げ，立位に戻る	42
22. 立位，片手でつかまって：前方へ10歩歩く	42
23. 立位：前方へ10歩歩く	43
24. 立位：20cm間隔の平行線の間を，前方へ10歩歩く	43
25. 立位：どちらか一方の足でボールを蹴る	43
26. 立位，上肢で支えて：4段昇る，交互に足を出して	44
27. 立位，上肢で支えて：4段降りる，交互に足を出して	44
言葉の説明	45

3 基本的ADL評価法	
JASPER・ADL Ver. 3.2の使い方	(伊達伸也/高橋義仁)・48
JASPER・ADL Ver. 3.2の特徴	48
評価の構造	48
評価表の使い方	49
注意点	49
活用の仕方	49
ADL評価表Ver.3.2	50
JASPER・ADL Ver.3.2記入マニュアル	55
1. 食事	55
2. 排泄	58
3. 更衣	62
4. 整容	71
5. 入浴	74
6. 基本的移動能力	76
Q&A	86

4 変形・拘縮評価法	
	(湊 純/岡安 勤)・90
本評価法の利用法	90
評価の基本事項	90
準備するもの	91
変形・拘縮評価表Ver. 5.1.3	92
評価表の記入	96
slow stretch版について	97
評価マニュアル	98
1. 頸部の回旋	98
2. 体幹の変形・拘縮	99
3. 肩関節の屈曲	101
4. 肘関節の伸展	101
5. 前腕の回外	101

6. 手関節の背屈	102
7. 股関節の変形・拘縮	102
8. 膝窩角	104
9. 足関節の変形・拘縮	104
fast stretch版について	110
評価マニュアル	110
1. SLR (straight leg raising test)	110
2. popliteal angle (膝関節伸展制限)	111
3. DKE (dorsiflexion with knee extension ; 膝関節伸展位での足関節背屈制限)	111

5 社会生活力・社会性評価法

(宮本晶恵/佐伯 満) ・114

社会生活力評価(青少年版)の概要	114
社会生活力評価(青少年版)評価表Ver. 4.1	118
社会生活力評価マニュアルVer. 4.1	121
脳性麻痺などによる重い障害をもつ幼児のための社会性評価表	128

粗大運動能力分類システムー改訂日本語版Ver.2.0	134
----------------------------	-----

索引	139
----	-----